



報道関係各位
プレスリリース

2011/10/24
コンデナスト・ジャパン

『GQ JAPAN』2011年12月号(10月24日発売)特集

人生は旅であり、旅もまた人生である エグゼクティブよ、旅に出よ！

- 中田英寿、ドリュー・バリモア、Twitter 創業者ジャック・ドーシー etc. セレブリティの旅が世界を変える
- ボーイング 787 がついに就航、21 世紀のフライトスタイルとは？

『GQ JAPAN』12月号はトラベル特集。仕事でもプライベートでも何かと移動が多いエグゼクティブに向けて、さまざまな旅のトピックスをお届けします。

巻頭に登場するのは、中田英寿さん。サッカー現役を引退して以降、世界各国を旅してまわった彼が、次に目を向けたのは日本でした。2年間にわたり日本を旅しながら出会ってきた人やモノについて、そして母国へのリスペクトを込めてスタートした「REVALUE NIPPON PROJECT」の話まで、日本文化の素晴らしさを広く伝えるための活動をレポート。そのほか、ケニアの田舎にある貧しい村を支援するドリュー・バリモア、Twitter で世界中の人々をつなぐジャック・ドーシーなど、世界を良くするために旅をするセレブたちを紹介します。

旅するエグゼクティブの注目が高まっているのが、この11月に世界で初めてANA国内線就航するボーイング787。カーボンを多用した機体にエコなエンジン、快適なキャビン環境まで、テクノロジーを詰め込んだ新型機の気になるスペックを大解剖。そして、『GQ』があえて今注目する旅の目的地はドバイ。2009年のドバイショック以降、この街で何が起きているのか。超高層ビルや金融マーケットだけでは語れない、クリエイティブでパワフルな魅力に溢れた新しいドバイのカルチャーを独自に現地取材しました。

旅の最新トピックスが充実の『GQ JAPAN』12月号、保存版間違いなしの一冊です！

■旅館「あさば」に見る、RYOKAN が世界基準になるための条件

長引く不況に東日本大震災の影響が拍車をかけ、深刻な状況が続く日本の観光業ですが、そのなかにあって躍進を続ける修善寺の旅館「あさば」の強さに迫りました。独立経営だからこそなしえる、マニュアルに頼らない優れた人材育成術や、土地の人間が土地の食材や風習文化でもてなすことこそが旅の楽しさにつながるという理念。「旅館」を国際的に通用する“RYOKAN”に押し上げた立役者の経営哲学から、真のグローバル化へのヒントを読み取ります。

■ウェブサイト連動クイズ、ここはどこでしょう？

どんなにネットでの情報収集が簡単になったといっても、旅に出て未知の世界を目にする感動は素晴らしいもの。そこで、多忙でなかなか旅に出られない方のために、世界の7つの絶景を誌面でご紹介。さらに、撮影場所がどこかを当てもらうクイズを『GQ JAPAN』ウェブサイトで実施します。すべて正解すると、スペシャルなプレゼントが！奮ってご応募ください。

■旅のパートナーにしたい最新ラゲッジカタログ

旅を共にする鞆を選ぶのも、旅する楽しみのひとつです。旅行鞆のスタンダードともいえるオーバーナイトーは、ブリーフケースを兼ねたタイプが、ビジネスシーンでも実用性が高く要注目。そのほか、ガーメントバッグやトrolleyケースなど、使いやすさとスタイリッシュなデザインを両立したおすすめのパックを集めました。

■ そのほか、『GQ JAPAN』12月号の特集は以下のとおり

- ・オンラインショッピングの常識を覆すギルトの新ビジネスモデル
 - ・別冊付録 巨匠ピーター・リンダーバーグがケビン・スペイシー、真田広之らトップスターを撮り下ろし！
 - ・等身大のハリウッドスター、エマ・ストーンが見せる白肌セクシー
 - ・ウェブサイト連動、ファッションスナップ連載がスタート
- ほか



GQ JAPAN 2011年12月号
Photo: Hiroshi Kai
(c)GQ JAPAN. All rights reserved.



GQ JAPAN 2011年12月号
Photo: Toshio Onda@super Sonic
(c)GQ JAPAN. All rights reserved.

【GQ JAPAN】

1957年に米国で創刊し、現在18カ国で発行される、クオリティ・ライフスタイル誌『GQ』の日本版。知性・品性・感性を備え、本質にこだわる男性のための月刊誌として、2003年に創刊。時代に影響を与えた各界の男性たちを毎年年末に表彰する「GQ Men of the Year」も好評。今年創刊8周年を迎えた。

編集長代理：竹内 大(たけうちだい) / 発売：毎月24日 / 定価：580円(税込) / 発行：コンデナスト・ジャパン

インターネットへの掲載の場合、

次のURLを掲載の上、リンクしてください。 <http://gqjapan.jp/latest>

本件に関する報道関係の方からのお問い合わせ先

GQ JAPAN マーケティング部 担当：日高 TEL：03-5485-9101 FAX：03-5766-3010